

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		ぐんぐん九条				公表日 令和8年3月5日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	ゆとりのある活動スペース（基準の2倍以上）を確保するとともに、個別のデスクブースを設けることで、集中しやすい環境を整えています。定員利用時においても、お子様一人ひとりが安全かつ落ち着いて活動できるスペースとして適切に機能しています。	定員とスペースの関係性を全職員が正しく理解し、緊急時や混雑時でも適切な誘導ができる体制を整えます。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	児童2.5名につき1名のスタッフを配置する体制をとっており、安全の確保と質の高い支援を両立できる適切な人数を維持しています。	欠員や急な状況変化があった際にも、勤務形態を問わず全職員が適切な人員配置の重要性と制度設計を正しく理解し、実践できる体制を徹底します。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	視覚支援による分かりやすい掲示に加え、お子様の背丈に合わせた洗面所の設置など、使用しやすさを追求した環境作りを行っています。お子様の状態に配慮した、安全で過ごしやすい生活空間が確保されています。	玄関の少しの段差は「座って靴を脱ぎ履きする」「日々の生活環境に近づける」ための支援上の工夫ですが、安全面での配慮をさらに強化します。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	毎日の清掃を徹底し、常に清潔な空間を維持するよう努めております。また、基本的な感染予防対策も継続して実施しており、お子様が健康的かつ心地よく過ごせる環境を整えております。	継続して取り組みます。		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	必要に応じて個別活動室を常に利用できる体制を維持しています。お子様が自分に合った環境で安心して過ごせるよう、お部屋や場所の柔軟な活用を徹底しております。	継続して取り組みます。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	PDCAサイクルを運用し、支援内容の具体化と業務効率化を図っています。常に振り返りと修正を繰り返すことで、職員全員が質の高い支援を継続して提供できる体制を整えています。	全職員がより能動的に参画できるよう、意見交換の場を定例化し、現場の声を迅速に支援計画の修正へ反映させる体制を強化します。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	保護者様からのご意見や意向をスタッフ間で共有・検討し、支援内容の見直しや環境整備などの業務改善に反映させております。	全職員に対して情報の周知徹底を図り、組織全体で改善に取り組む体制を整えていきます。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	毎日の朝礼と連絡ノートを通じ、勤務形態を問わず全職員が意見を共有できる環境を構築しています。スタッフの気づきを漏れなく取り上げ、日々の支援改善に反映させています。	今後は、出された意見に対する改善結果のフィードバックを強化し、職員のモチベーション向上と支援の質の向上を図ります。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4	現在は内部評価を主軸としています。	今後は外部機関の活用も含め、より客観的な評価体制の構築を検討してまいります。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	年間計画に基づき、法人内での研修会を定期的に開催して、支援の質の向上に努めています。また、外部研修への参加も積極的に推奨しており、スタッフ一人ひとりが専門知識を深め、より良い支援をお子様を提供できる体制を整えています。	継続して取り組みます。		
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	お子様の成長を支えるプログラムを分かりやすく作成し、ホームページにて広く公開しています。どのような支援を行っているかを保護者様に正しくお伝えできるよう、内容の充実と公表に努めています。	継続して取り組みます。		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	保護者様の意向を客観的に分析するとともに、学校や職員の意見を統合して支援計画を作成しています。周囲の環境や関係機関と情報を共有することで、お子様のニーズに沿った適切な計画に努めています。	継続して取り組みます。		
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	児童発達支援管理責任者だけでなく、全職員で会議を行い、一人ひとりの意見を反映させて計画を作成しています。関係機関ともしっかり情報を共有し、お子様にとって一番良い支援ができるようチーム体制で取り組んでいます。	継続して取り組みます。		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	支援計画をアプリで常時共有し、常に計画に沿った支援を行っています。会議でも内容を周知し、スタッフ全員が同じ目標を持って、お子様のサポートにあられるよう努めています。	現在アプリや会議で計画を共有していますが、勤務回数のない非常勤職員がどのタイミングで勤務しても、計画に基づいた一貫性のある支援を提供できるよう、情報の「見える化」と「伝え方」の工夫を継続していきます。		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	専門的な評価ツールと日々の行動観察を併用し、お子様の適応行動を正しく把握しています。多角的なアセスメントを行うことで、一人ひとりの特性や状況に応じた確実な支援に繋がっています。	継続して取り組みます。		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	ガイドラインに定められた支援のねらいを踏まえ、お子様ごとの状況に応じた具体的な支援項目を計画に設定しています。各分野の支援内容を適切に盛り込み、個別のニーズに沿った支援の提供を徹底しています。	継続して取り組みます。		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	活動プログラムの立案はチームで行い、お子様一人ひとりの特性や発達段階、ニーズに沿った内容をスタッフ間で検討しています。全員で意見を出し合うことで、多角的な視点を取り入れた最適な支援の提供に努めています。	継続して取り組みます。		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	お子様の特性に合わせて、職員全員で活動プログラムを検討・更新しています。内容を固定せず、常に一人ひとりの成長や興味に寄り添った、柔軟で多様なプログラムの立案を徹底しています。	継続して取り組みます。		
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	集団と個別の活動をバランスよく取り入れ、お子様の今の状況に最適な支援計画を作成しています。集団の中での学びと、個人のニーズに特化した支援を両立させ、多角的なサポートを徹底しています。	継続して取り組みます。		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	毎日の事前打ち合わせで支援内容とスタッフの役割を必ず確認し、チーム体制で支援にあたっています。スタッフ間の情報共有を徹底することで、常に足並みを揃えた質の高い支援の提供に努めています。	継続して取り組みます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	毎日の振り返りを通してスタッフ間で気づきを共有しています。終業時に時間が確保できない場合も、翌朝の朝礼で必ず伝達・検討を行い、情報共有が滞ることはないよう徹底しています。	時間が限られる場合でも、重要事項が確実に伝わるよう、連絡ノートでのフォーマット改善やICTの活用を検討し、全職員が共通の認識を持って一貫した支援を提供できる体制を強化していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	日々の活動記録を詳細に作成し、お子様の小さな変化や成長を確実に把握しています。これらの記録を基に支援内容の検証と改善を繰り返し、一人ひとりに最適な支援を継続できるよう努めています。	継続して取り組みます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	6ヶ月に1回の定期モニタリングを実施し、保護者様や学校、関係機関の意見を反映した計画の見直しを行っています。お子様の成長や環境の変化を的確に捉え、常に適切な支援が提供できるよう努めています。	継続して取り組みます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7	0	1ヶ月の活動計画の中に4つの基本活動をすべて組み込み、漏れなく提供できるように管理しています。備りのない多様なプログラムを実施することで、お子様の幅広い可能性を広げる支援に努めています。	継続して取り組みます。
関係機関や保護者との連携	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	見通しの提示や相談を通じて、お子様が活動内容や優先順位を自ら選択できる支援を行っています。日々の関わりの中で自己決定の機会を多く設け、主体性を育むための丁寧なサポートに努めています。	継続して取り組みます。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	お子様に関する会議には、状況を熟知した児童発達支援管理責任者が必ず参加しています。関係機関との緊密な情報共有を重視し、事業所としての意向を正確に伝え、支援の質の向上に繋げています。	継続して取り組みます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	各関係機関との緊密な連携を通じて、一貫性のある支援体制を構築しています。地域のネットワークを活かし、お子様と保護者様が安心して生活できるよう、多角的なサポートの提供に努めています。	継続して取り組みます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	学校行事や下校時間の変更を常に把握し、適切な送迎と連絡調整を行っています。学校側と円滑なコミュニケーションを図ることで、情報の共有を徹底し、お子様の状況に合わせた迅速かつ柔軟な対応に努めています。	継続して取り組みます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0	就学前後の環境変化に配慮し、関係機関との情報共有を常に行っています。お子様のこれまでの成長過程を正しく把握し、将来を見据えた一貫性のある移行支援の提供に努めています。	継続して取り組みます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	4	現在は対象となる児童はいませんが、移行の際は、これまでの支援経過や情報を適切に提供し、関係機関と円滑な引き継ぎを行う方針です。	単なる情報の伝達に留まらず、卒業後の生活に対する本人・保護者の意向を長期的な視点でヒアリングし、個別支援計画に反映させていきます。数年前から段階的に移行準備を進められるよう、相談支援専門員との連携をさらに強化していきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	0	児童発達支援センターとの積極的な交流や研修への参加を通じて、専門的な助言を受けられる体制を整えています。地域の中核機関と連携し、支援内容の客観的な検証やスタッフのスキルアップを継続的に実施しています。	継続して取り組みます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	7	0	公園遊びや買い物体験などの外出支援を通じて、地域の子どもたちや住民の方々と積極的に交流しています。公共の場でのルールを学びながら、地域社会の中で多様な触れ合いを大切に支援を行っています。	継続して取り組みます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	0	地域自立支援協議会の子ども部会に所属し、他事業所との意見交換や年4回の合同研修を通じて連携を深めています。地域全体の支援の質を高めるためのネットワーク構築に努め、一貫性のある地域福祉の実現に協力しています。	継続して取り組みます。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	アプリのチャットや送迎時の対話を通じ、日々の様子を細やかに共有しています。保護者様と常に最新の情報を分かち合うことで、お子様の課題や成長に対する共通理解を深め、一貫性のある支援の提供に努めています。	継続して取り組みます。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4	現在は保護者様のご都合が多様のため、事業所独自の交流会等の開催は調整中ですが、外部の研修会やペアレント・トレーニング等の有益な情報については、必要に応じて適宜提供を行っています。	現在は個別の情報提供に留まっているため、今後はオンラインの活用や外部講師の案内など、保護者の皆様に参加しやすい形態での支援プログラムを具体化していきます。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時にプログラムの詳細や費用負担について漏れなく説明し、同意を得た上でご利用いただいています。透明性の高い情報提供を徹底し、保護者様が安心してサービスを利用できるよう誠実な対応に努めています。	継続して取り組みます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	お子様と保護者様の意思を尊重し、最善の利益を考慮した計画作成を徹底しています。モニタリングの際には常に意向の変化を確認し、現状の課題とニーズに即した質の高い支援プログラムへと更新し続ける体制を整えています。	継続して取り組みます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	計画作成時には必ず対面等での説明を行い、保護者様の同意を得た上で日々の支援に反映させています。各項目の意図を明確に伝えることで、保護者様との信頼関係を深め、より効果的な支援の提供に繋がっています。	継続して取り組みます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	相談時には保護者様の意向を第一に確認し、専門的な視点から適切な助言や支援を提供しています。家庭と事業所が二足三脚でお子様を支えられるよう、心理的なサポートを含めた丁寧なコミュニケーションを心がけています。	継続して取り組みます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	4	現在は保護者様のニーズや参加のしやすさを考慮し、具体的な交流会の開催は見合わせておりますが、今後の重要な課題として検討を行っています。	保護者様同士やご兄弟が自然に交流できる機会を適切に提供できるよう、イベント開催に向けた具体的な準備・検討を進めてまいります。
41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	苦情対応窓口を明確にし、お申し出があった際には迅速に事実確認と適切な対応を行う体制を整えています。	継続して取り組みます。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	アプリのチャット機能等を活用し、日々の活動概要や行事予定を継続的に発信しています。保護者様が必要な情報にいつでもアクセスできるよう、迅速な情報共有と丁寧な連絡体制の構築を徹底しています。	継続して取り組みます。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	個人情報の重要性を職員全員が深く認識し、情報の厳重な管理を徹底しています。保護者様には契約時に取り扱いについて明確な説明を行い、同意を得ることで、安心してお子様を預けていただける安全な体制を整えています。	継続して取り組みます。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	お子様の特性に応じた適切な情報伝達に努めています。視覚的な補助ツールの活用や、一人ひとりに合わせた丁寧な言葉かけを実践することで、お子様との確実な意思疎通を図り、混乱なく活動に参加できるよう細やかな配慮を行っています。	継続して取り組みます。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	清掃活動や商店街でのイベント参加を通じ、地域住民との交流を深めています。	安全・プライバシーに配慮した上で、事業所内での作品展示や交流イベントの開催を検討し、より地域に開かれた事業運営を目指します。	
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	各種マニュアルに基づく研修と、家族への周知を行っています。年2回の避難訓練や感染症対応訓練を継続し、職員の危機管理意識を高めることで、安全確保に万全を期しています。	継続して取り組みます。
		47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	災害時の事業継続に向けたBCPを策定済みであり、それに基づいた研修や避難訓練を定期的実施しています。	現在、研修報告書と資料の閲覧後にサインを求める運用を行っていますが、全職員が漏れなく内容を把握できるよう徹底してまいります。
		48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	契約時に服薬や発作等の重要事項を確認し、同意書に基づき適切に管理しています。対応マニュアルの周知と健康状態の正確な把握を徹底し、安全・安心な支援環境を維持しています。	継続して取り組みます。
		49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	契約時にアレルギーの有無を確認し、医師の指示書に基づいた適切な配慮を行っています。アレルギー情報は常に最新の状態を維持し、職員への周知を徹底することで、お子様が安心して過ごせるよう安全な環境維持に努めています。	継続して取り組みます。
		50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	具体的な安全計画に基づき、年間の研修や訓練を計画的に実施することで、万全の安全管理体制を構築しています。	継続して取り組みます。
		51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	安全計画に基づく具体的な取組内容を保護者様へ周知し、安全管理に対する理解と協力を得られる体制を整えています。	継続して取り組みます。
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハット報告を通じて事例の周知を行い、職員間で再発防止に向けた協議を定期的に重ねています。	継続して取り組みます。	
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	虐待防止・身体拘束適正化研修を定期実施し、検証を徹底しています。職員の人権意識と対応力を向上させ、安全・安心な支援体制を継続的に構築しています。	継続して取り組みます。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	身体拘束はやむを得ない場合に限り、事前に保護者様の同意を得て支援計画に明記した上で実施します。実施時は必ず詳細な記録を残し職員間で共有するとともに、拘束を最小限に抑え、行わないで済む支援環境づくりを最優先に取り組みしています。	継続して取り組みます。		